

≡ 今月のテーマ ≡

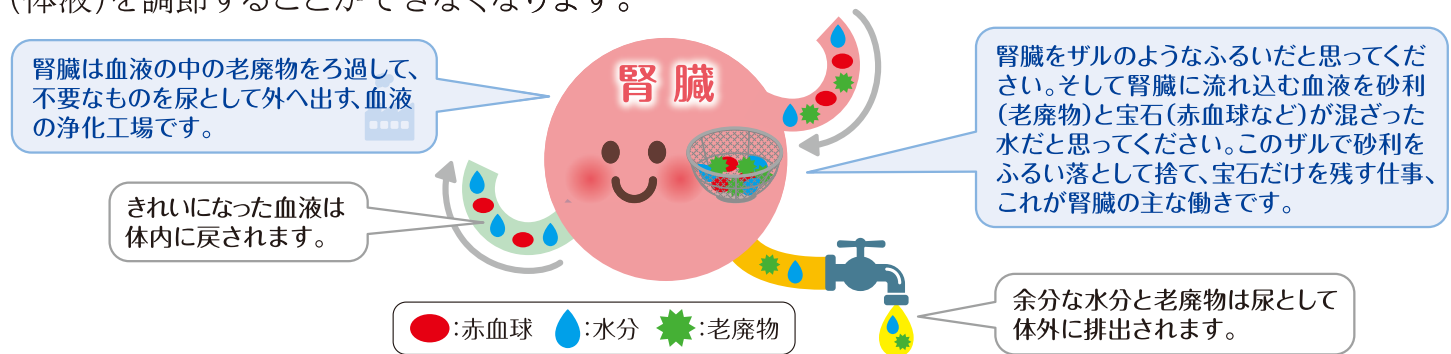
やく ざい せい じん しょう がい

薬剤性腎障害について

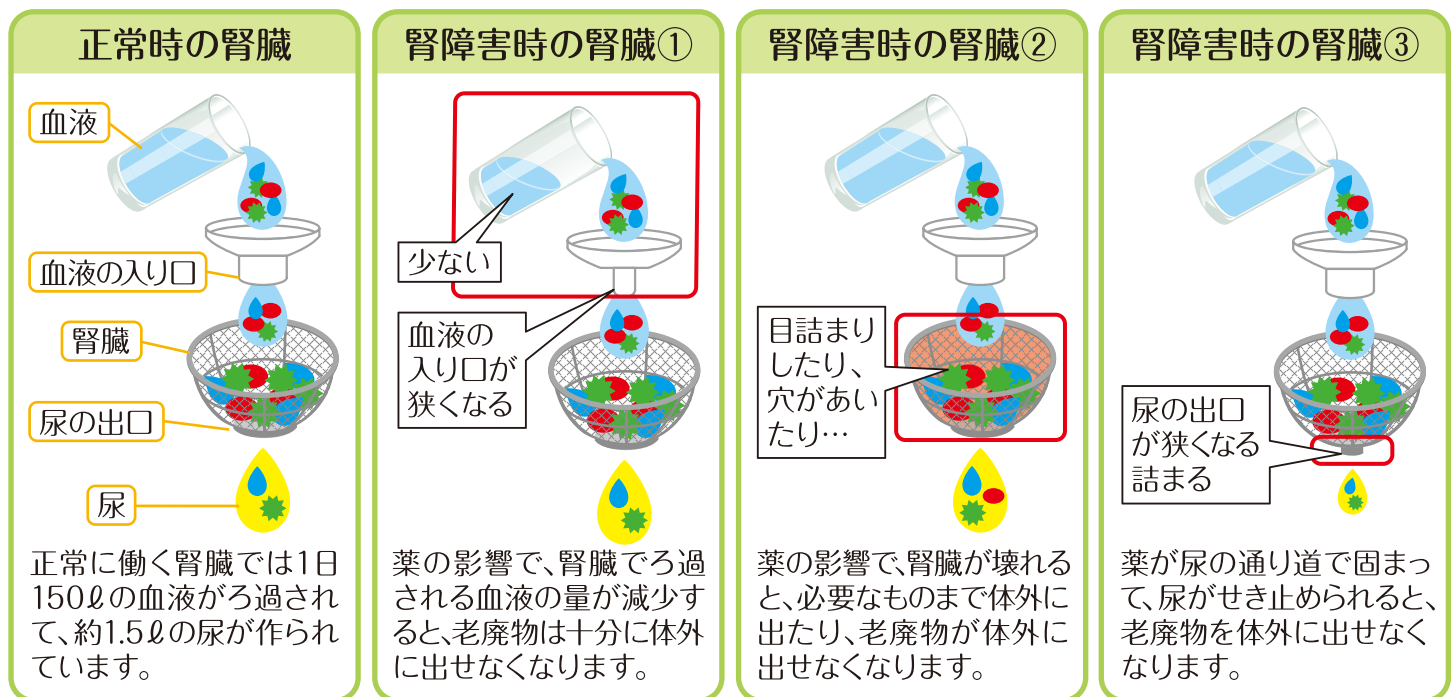
急性腎障害とは、いろいろな原因で腎臓の機能が短期間に低下することをいいます。その原因の一つに薬があげられます。薬が原因となった急性腎障害を薬剤性腎障害といいます。薬剤性腎障害は原因を除くことで、多くの場合進行を止め、改善させることが可能です。そのため、早期発見と早期対応が、重症化を防ぐ一番よい方法です。

➤ 腎臓の働きを知っていますか？

腎臓の一番大きな働きは、余分な塩分(ナトリウム)や老廃物などを尿として体の外に排泄することです。腎障害を受けると、尿から老廃物を排泄できなくなり、さらに体内の水分量や塩分量など(体液)を調節することができなくなります。



➤ 薬剤性腎障害はどうして起こるの？



➤ 薬剤性腎障害の症状は？

「尿量が少なくなる」、「ほとんど尿が出ない」、
「発疹」、「むくみ」、「一時的に尿量が多くなる」、
「体がだるい」など



➤ 薬剤性腎障害の早期発見・早期対応のポイントは？

薬剤性腎障害は、薬を服用して数時間以内に発症することもあるが、数年経ってから発症することもあります。下記の条件が複数組み合わせることによってリスクが高くなります。

新しく薬が追加された時、発熱、下痢、熱中症などの時は特に注意しましょう。

【特に注意が必要な状況】

- 腎機能低下
- 発熱、下痢
- 脱水(飲水量が少ない)
- 食事量の減少
- 複数の医薬品の服用など



【特に注意が必要な薬】

- 解熱鎮痛薬(ロキソニン®、セレコックス®、ハイペン®など)
- 高血圧治療薬(アジルバ®、オルメテック®、プロプレス®など)
- 利尿薬(ラシックス®、ダイアート®、ナトリックス®、アルダクトン®など)
- 抗菌薬・抗ウイルス薬(クラビット®、バルトレックス®など)
- 造影剤(ヨード造影剤)など

「解熱鎮痛薬えぬせいず(NSAIDs)」、「利尿薬」、「高血圧治療薬あーるえーけいよくせいやく(RA系抑制薬)」の3剤併用は「トリプル ワーミー(triple whammy)」と呼ばれ、急性腎障害の発症リスクが高まると注意喚起されています。

しかし、これらの薬の投与により必ず腎障害を起こすわけではありません。自己判断で服薬を中断することは避けましょう。気になる症状があり、これらの薬を服用している場合には、医師・薬剤師に連絡するか、すみやかに診察を受けて下さい。

これから暑くなり、汗をかいて脱水を起こしやすい季節になります。普段は問題なくても、脱水時には腎障害を起こしやすいので水分補給をこころがけましょう。



お薬や介護、食事(栄養)についてわからないことや、気がかりなことがありましたら、
お気軽にお尋ねください。

担当 みやこ薬局 大宮店

<https://www.miyako-ph.co.jp>

みやこ薬局

本店・山科店・薬大前店・マツヤスーパー店・北山店・紫竹店・大宮店・桂店